

平成26年度

病害虫情報(第10号) 1・2月予報



平成26年12月26日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 1・2月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 1
【水稲、カンキツ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、三浦野菜(キャベツ、ダイコン)】
- II 1・2月の病害虫発生予報の内容とその根拠 6
- III 1・2月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部12月24日発表3か月予報)及び気象の経過 ... 7

- 農薬を使用する際は、製品に記載されている使用基準を必ず確認するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- 収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。

※ 農薬に関する情報は、平成26年12月17日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 1・2月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

【水稲】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期						防 除 の ポ イ ン ト
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
縞葉枯病 (水田内雑草、水田周 辺雑草)	—	—							※イネ縞葉枯病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①水田内雑草をうない込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ越冬貝	—	—							※スクミリンゴガイ越冬貝生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①貝殻を傷つけることができる細かい耕うん。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。

【カンキツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期						防 除 の ポ イ ン ト
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
ミカンハダニ	やや多	○	←	→					❖カイガラムシ類の防除は、冬期(厳寒期除く)の防除が効果的である。
カイガラムシ類	—	○							

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミカンハダニ	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%)
カイガラムシ類	★ 農薬使用のポイント <ul style="list-style-type: none"> ● マシン油乳剤:商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ● 散布は、厳寒期を避けること。

病害虫情報

(H26・No.10) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←————→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期						防除のポイント
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
灰色かび病	—	○	←	←	←	←	←	←	
タバココナジラミ	—	○	←	←	←	←	←	←	❖TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。
アブラムシ類	—	○							❖CMV等(モザイク病)を媒介。

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

灰色かび病	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000～3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [前日, 3回] 1,000倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● ベルクート(2,000～4,000倍): 葉かび病、うどんこ病、すすかび病にも適用あり。 ● ポリオキシシAL: 葉かび病にも適用あり。		
コナジラミ類 タバココナジラミ アブラムシ類	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] 4,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍	等
★ 農薬使用のポイント		
● サンクリスタル: トマトサビダニ、うどんこ病(300～600倍)にも適用あり。		

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: ポリオキシシAL (1日)、コルト(セイヨウオオマルハナバチ 3日後、クロマルハナバチ 7日後)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合: 1作2回
- ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(H26・No.10) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】 [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期						防 除 の ポ イ ン ト
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
べと病	—	○	←→	←→	(定植)	←→	←→	←→	❖ 育苗期からの薬剤散布の効果が 高い。
うどんこ病	—	○							
アブラムシ類	—	○	←→	←→	(定植)	←→	←→	←→	❖ CMV等(モザイク病)を媒介。
コナジラミ類	—	○	☞ウイルス病の予防対策として、育苗期 から粒剤を施用し、感染を防止する。						❖ CCYV(退緑黄化病)を媒介。
アザミウマ類	—	○							❖ MYSV(黄化えそ病)を媒介。

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

べと病 うどんこ病	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッション水和剤 [発病前~発病初期,-] うどんこ病:500~1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] べと病:600~800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000~2,000倍 等
★ 農薬使用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● ダコニール:褐斑病、灰色かび病にも適用あり。 ● インプレッション:灰色かび病にも適用あり。 ● ジマンダイセン(600倍):褐斑病にも適用あり。 	
アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 ダントツ粒剤 [育苗期後半,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ:1g/株 【定植時:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1~2g/株、アザミウマ類:2g/株 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回:植穴又は株元土壌混和] アブラムシ類、アザミウマ類:1~2g/株 [定植時,1回:植穴土壌混和] コナジラミ類:2g/株 【育苗期~定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ:1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 等
★ 農薬使用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● アルバリン、スタークル:ハモグリバエ類(2g/株)にも適用あり。 	

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(H26・No.10) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←————→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期						防 除 の ポ イ ン ト
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
灰色かび病	やや多	○	←→		←→		←→		
うどんこ病	多	◎							❖うどんこ病に関する注意報を平成26年11月28日に発表。
アブラムシ類	やや少	○	←→		←→		←→		
コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	並 やや少	○							
アザミウマ類	やや少	○							
ハダニ類	やや多	○							

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

灰色かび病 うどんこ病	<p>(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日</p> <p>(予) タフパール [発病前～発病初期, -] うどんこ病:2,000～4,000倍</p> <p>(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 灰色かび病:500～1,000倍、うどんこ病:2,000倍</p> <p>(予) フルピカフロアブル [前日,3回] 2,000～3,000倍</p> <p>(予・治) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍</p> <p>(治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 灰色かび病:800倍、うどんこ病:800～1,000倍</p> <p>(治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病:300～600倍 等</p> <p>★ 農薬使用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タフパール:展着剤ニーズを加用しない。
アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	<p>モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍</p> <p>ウララDF [前日,2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍</p> <p>マッチ乳剤 [前日,4回] ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍</p> <p>サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等</p>
ハダニ類	<p>スターマイトフロアブル [前日,2回] 2,000倍</p> <p>サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 等</p> <p>★ 農薬使用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スターマイト:シクラメンホコリダニにも適用あり。

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

ミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響 (アリストライフサイエンス(株) 作物保護製品ガイド2015より)

- ▶ 影響のある剤:モスピラン(影響あり)、サンクリスタル(多少影響あり)。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(H26・No.10) …………… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

【キャベツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期						防除のポイント
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
腐敗病	並	○	——	~~~~	~~~~	~~~~	~~~~	~~~~	◆ 発病株を放置すると土壤中の病原菌密度を高めてしまうので、早めに除去する。
菌核病 灰色かび病	並 やや多	○	——	——	↔	——	——	↔	◆ 結球後の防除効果が期待できないので、春キャベツへの感染を防ぐため、発病株は見つけ次第除去、処分する。
黒腐病	並	○	——	↔	——	——	——	——	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

菌核病 灰色かび病	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 菌核病:2,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [14日,3回] 菌核病:2,000~3,000倍、灰色かび病:3,000倍 等
黒腐病	(予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 (予・治) バリダシン液剤5 [7日,5回] 800倍 等

【ダイコン】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期						防除のポイント
			1月			2月			
			上	中	下	上	中	下	
黒斑細菌病	やや多	○	~~~~	~~~~	~~~~	~~~~	~~~~	~~~~	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

黒斑細菌病	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カッパーシン水和剤 又は カスミンボルドー [14日,3回] 1,000倍 等
★ 農薬使用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● Zボルドー:薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。 ● カッパーシン、カスミンボルドーは銅とカスガマイシンを含む混合剤。カスガマイシンを含む剤にはカセット水和剤等がある。 ● Zボルドー、カッパーシン、カスミンボルドー:軟腐病にも適用あり。 	

病害虫情報

(H26・No. 10) …………… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 1・2月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠	
		程度	平年比		
カンキツ	ミカンハダニ	少	やや多	1) 県予察ほでは、発生が平年並よりやや多い。(+) 2) 12月の気温は平年より低い。(－) 3) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)	
	促成イチゴ	灰色かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
		うどんこ病	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年より少ない。(－) 3) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)	
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 やや少	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年並(±)、タバココナジラミの発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)	
	アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)	
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(±)	
三浦半島地区野菜					
早春キャベツ	腐敗病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	
	灰色かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	
	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	
冬ダイコン	黒斑細菌病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	
	ナモグリバエ	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への成虫誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 1月は、気温、降水量ともに平年並の予報。 2月は、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予報。(＋)	

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報 (H26・No. 10) …… 神奈川県農業技術センター

Ⅲ 1・2月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部12月24日発表3か月予報)及び気象の経過

〈天 気〉

- 1月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 2月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1月	気 温	30%	40%	30%
	降 水 量	30%	40%	30%
2月	気 温	30%	30%	40%
	降 水 量	30%	30%	40%

〈気象の経過〉[観測地 横浜地方気象台]

12月第4半旬まで
 気温は、1半旬は平年並み、2～4半旬は平年より低かった。
 降水量は、1,4半旬は平年より多く、2～3半旬は平年より少なかった。
 日照時間は、1,3～4半旬は平年並、2半旬は平年より多かった。

